

第7次中期計画書・営農振興計画書

令和元年度～令和3年度

令和2年度取組実践状況報告 (JA前橋市の自己改革の取り組み)

第7次中期計画・営農振興計画について

中期計画・営農振興計画とは、めざすJA前橋市の姿(長期ビジョン)の実現に向け、経営課題に取り組むための3か年(第7次は令和元年度～令和3年度)の計画です。

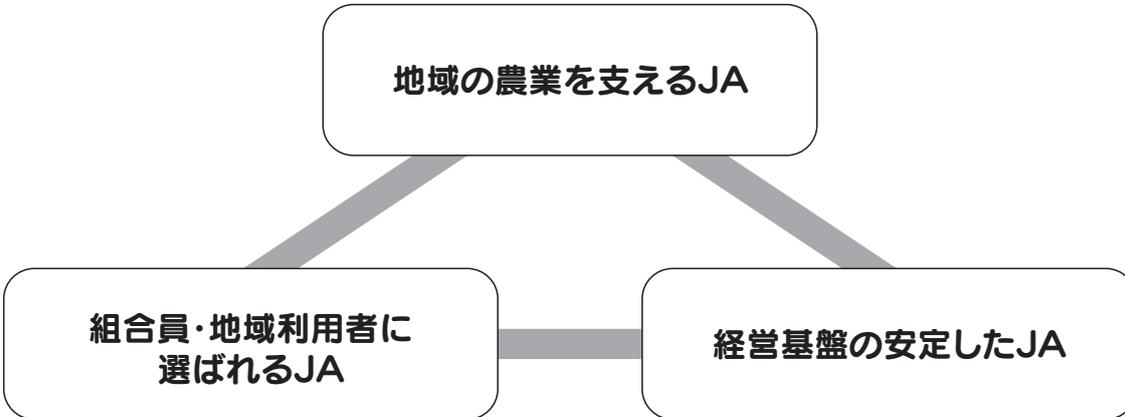
徹底した進捗管理により、掲げた3か年の数値目標の達成、さらにはめざすJA前橋市の姿の実現に向け、役職員一丸となって取り組んでいます。

自己改革としての取り組み

JA前橋市では、中期計画・営農振興計画に基づき、自己改革に取り組んでおり、その実践が組合員へ浸透し、組合員がより実感していただけるよう取り組みを進めてまいります。また、自己改革の大命題である「農業者の所得増大」に向けて最大限の努力をしております。

めざすJA前橋市の姿(長期ビジョン)

地域農業と地域利用者に貢献するJA



農業者の所得増大・生産拡大に向けた取り組み

農家の技術支援 各エリアで栽培講習会等開催

JA前橋市各種支援事業等の有効活用の実践とエリア毎にコロナウイルス感染拡大防止対策を実施したなかで栽培講習会・現地講習会を開催しました。栽培技術支援の実施により、JA前橋市の重点8品目を中心に生産拡大を図りました。

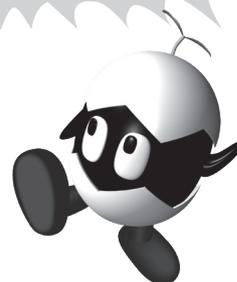
露地なす栽培の新規生産者9名74aを対象にした現地勉強会を毎月実施しました。新規生産者の圃場をローテーションで勉強会の会場とし、樹勢をみながら栽培技術の共有が図られ、生産者が目標としていた1株あたり120個の達成ができました。



▲露地ナスの新規栽培者に向けた現地講習会

合計21ha
生産拡大!!

ほうれん草	2.8ha
ナス	0.9ha
ブロッコリー	3.4ha
枝豆	3.3ha
ズッキーニ	0.4ha
加工玉ねぎ	0.9ha
加工キャベツ	9.3ha



経営コスト低減 生産資材価格の低減

経営コスト低減を図るため、価格調査結果をもとに仕入れ業者と交渉を行い、生産資材を中心に多品目の価格低減や仕入れ方法の見直し(大量仕入)を行った結果、肥料では価格低減品目の1品目追加となりました(計7品目)。また、肥料・マルチ共同購入運動、低コスト飼料用米一発肥料の販売、農薬担い手規格(大型)取扱い拡大により組合員への供給価格低減に努めました。

担い手経営体の育成支援

行政・関係機関との連携による家畜伝染病侵入防止補助事業支援及び防疫資材の提供を行いました。

営農センター化の実現

営農支援活動

営農渉外担当者等が生産者に対して、年間10,962件の訪問活動を実施しました。土壌の状態に沿った施肥が収量増加に繋がることから、土壌診断を行っていただくよう提案を行い、適正施肥の提案活動を行いました。また、各種補助事業の情報提供による部門間連携の活動も行いました。

営農渉外担当者研修会を毎月実施しました。担当者の知識の共有を図るとともに生産者宅を訪問し、対話力の強化に取り組みました。



▲土壌診断結果をもとに生産者への適正な施肥方法をアドバイスする職員

エリア化の特性を活かした生産振興

エリア毎の特性を活かした栽培モデルを活用し、生産者(16件)へ既存作物にプラス1(プラスワン)提案活動を行い、生産拡大を図りました。



▲麦栽培について講習を受ける参加者

総合事業性を活かした部門間の情報共有と 発信による利用者へのアプローチ

部門間連携による農業金融施策のPRと顧客満足度の向上

営農部・畜産部・支所・営農センターとの部門間連携のもと、農業メイン強化先訪問による資金ニーズの把握と相談機能の充実に努め、農業関連資金7億21百万円(新型コロナウイルス緊急対策資金含む)の新規実行を行いました。

ローンセンターを中心とした融資推進体制確立により47億24百万円の住宅ローン新規融資実行を行いました。